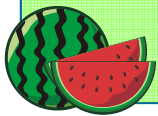




総合教育センターだより

Be Connected

平成21年8月17日（月）
第5号（通算第88号）
京都府総合教育センター
Tel. 075-612-3266



研修の夏！研鑽の汗！

総合教育センターでは、各種の「研修講座」や「出前講座」を行っていますが、併せて各学校で実施する「校内研修」は、多くの教職員にとって実践的指導力を向上させる大切な機会です。夏季休業中に「校内研修」を計画されている学校も多いと思います。

そこで今回は、「校内研修」、その中でも特に「授業研究」について、大切なポイントをいくつか紹介したいと思います。

※「教育公務員は、その職責を遂行するために、絶えず研究と修養に努めなければならない」（教特法第二十一条）

校内研修活性化のための3つのポイントと留意点

- ①目的を明確にした研修（テーマごとの研修計画）
- ②日常の教育実践に結び付く研修（諸課題の解決に直結）
- ③支援者による具体的な支援・助言（支援体制の確立）



（校内研修実施に向けての留意点）

- ◆教職員の「共通理解」「協働意欲」「コミュニケーション」が大切！
- ◆“我が校”にとっての人的・物的・財政的・組織運営的条件に即したものが大切！
- ◆学校は、“教師にとっても学びの場”という学校文化・教師文化の創造が大切！
- ◆PDCAのサイクルに基づく具体的な方策が大切！

「授業研究」に主眼を置いた校内研修



「授業研究」の目的は、教師の“授業力”向上にあります。“授業力”について、センターでは、次の6点に整理しています。

- ①児童生徒を理解する力
- ②深い教材理解と授業を設計する力
- ③確かな指導技術
- ④お互いに高め合う学習集団を育成する力
- ⑤評価し改善する力
- ⑥組織を運営し協働する力<「校内研修ハンドブック」より>

“授業力”をつける3つのポイント



授業では、教師が「教えたこと」を児童生徒が「学びたい」「究めたい」「調べたい」というものに変え、学習意欲や探求意欲を引き出すことが大切です。

そのための“授業力”をつける3つのポイントを紹介します。

- ①授業の「ねらい」を明確にする（事前研究：「授業構想」「指導案の検討」）
- ②児童生徒の理解の筋道を踏まえた授業の展開をする（授業公開：「研究授業」）
- ③自校や他校のすぐれた実践事例に学ぶ（事後研究：「授業改善」「研究成果の共有」）

※センター作成の「校内研修ハンドブックー授業研究の充実を目指してー」も併せてご活用下さい。



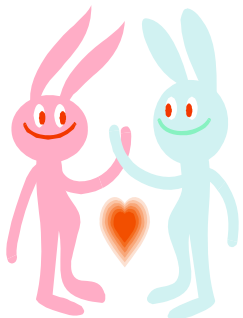
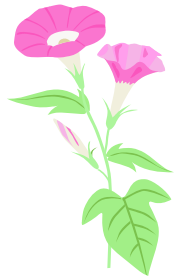
信頼ある学校を創るために②

例年、当センターでは、夏季休業明けの9月・10月に不登校に関する電話教育相談が増加しています。不登校は、未然防止・早期対応が大切であると言われていています。同時に、学校の責任ある対応が問われる事象でもあります。

今回は2学期を迎えるにあたって、「不登校の初期対応」について紹介します。教職員として責任を果たし、児童生徒や保護者の学校に対する期待や願いに応える支援を是非していきたいものです。

【サインに気付く】※学校・教職員の責務

- 夏季休業中は、学校や友人、学習、規則正しい生活等から遠のく時期です。そのため夏季休業明けは、特に児童生徒の様子を丁寧に観察し、表情やその他小さな変化に気付くことが必要です。気付くことにより、適切な対応を可能にし、不登校を未然に防止することにつながります。
- 気になる児童生徒には、夏季休業中に家庭訪問等を実施して2学期の開始に備えておきたいものです。



【サインに気付いたら】※適切な初期対応

- 担任は、家庭訪問や個人面談を行い、保護者とも連携し、児童生徒の話を聴くとともに、適切な働きかけや支援等、状況に応じた対応を行うことです。このことは学校や教職員への信頼に応えることにもなります。
- 学校は、対応を担任任せにせず、学校が組織として取り組むことや、スクールカウンセラーの活用、センターをはじめ専門機関との連携を図ることが極めて大切です。

ふれあいすこやかテレフォン

24時間電話教育相談

京都府総合教育センター
075-612-3268または3301

京都府総合教育センター北部研修所
0773-43-0390

ひとりで悩まず、一緒に考えませんか？
※受付時間 毎日24時間



アドバイザー全校訪問終える

人材育成支援室のアドバイザーが府内全小・中・府立学校を訪問しました。

「単位制履修制度」「教職員の人材育成」「学校における諸課題」等、様々なご意見を校長先生等から伺いました。

その中で、「センターとしてやるべきこと」や「情報発信する価値」など、センターの役割を痛感しました。

今後も、総合教育センターは、学校・教職員のニーズに応じた支援に一層努めていきます。



～センターからの一言～

美しい言葉には、美しい響きがある。美しい響きには、美しい心を感じる。自身の美しい想いを言葉に響かせて相手の心に伝えていきたい。

残暑お見舞い、
申しあげます